

土木学会へ期待する
—— 各方面
からの声を聞こう

土木学会に期待する

関係学協会

その 1

日本鉄道施設協会会長
平井喜久松

今、全世界の人々が一番望んでいることは恒久平和の樹立と、福祉国家の建設ということであると思う。恒久平和の樹立ということはいろいろな「イデオロギー」の対立している現在の国際状況の中では問題は複雑であり、なかなか簡単に片づきそうもない。しかし、福祉国家の建設ということは各国ともそれぞれ努力もしているし、また、一步一步のその実現を目指して進みつつある。しかして福祉国家建設の実現に大きな役割りを果たしているのが、われわれの携わっている土木工学なのである。福祉国家の建設上必要欠くべからざる条件の一つは、公共施設の充実である。あらゆる交通施設の整備、「エネルギー」資源の開発、環境衛生施設の完備、「リクリエーション」施設の充実などはいずれも土木工学の取り扱うものであり、したがって土木工学の進歩発達は福祉国家の実現に大きな貢献をなすのである。このことを思えばわれわれ土木工学に携わるものは誇りをもってこの工学の新しい前進にまい進し、完全なる実現に努力しなければならぬと思うものである。

その 2

情報処理学会会長
後藤以紀

貴学会創立 50 周年記念号に祝辞をのべる機会を与えられたことは、私の最も光栄とするところであります。

私の所属する情報処理学会は電子計算機とその応用としての情報処理の分野を担当しておりますが、貴学会誌にもダム構造や、橋梁の計算、行列による吊橋の解析、河川の洪水予測などへの電子計算機の応用が見られ、はなはだ心強く感ずる次第であります。しかし、電気回路の計算と異なり不確定な部分が多く扱いにくいことと思われませんが、工事計画作成に利用される計算法、PERT (Program Evaluation and Review Technique) において、最小、中間、最大の三つの値を使っているように、数値の幅をとり入れることにより計算機がさらに広範囲に利用されることを期待します。ここに貴会 50 年のご発展をお祝いするとともに将来のご活躍に対してわれわれもご協力をおしまないものであります。

その 3

日本技術士会会長
玉置正治

貴土木学会が過去 50 年にわたりわが国土木技術の向上に絶大な業績をあげられたことに対し、深甚の敬意を表するものであります。

日本技術士会は、会員の活動を通じあらゆる技術分野で高度の技術を各方面の要求に応じて提供し、わが国産業の発展、海外への技術協力などに役立つべく努力しておりますが、技術士活動の基盤は、科学技術の進歩発達であります。特に現在技術士のうち約半数が建設部門の人々である関係上、土木学会の発表された学術的基礎研究の成果や新しい工法の開発成果などはこれを実地面に応用することにより、技術士活動の活発化の大きな刺激となっており、ひいてはわが国の土木技術の一般的向上に役立っております。

このような観点からしても、貴学会が今後も高い技術を産みだす母体としていっそうのご活躍ご発展をお祈り

し、かつ期待するとともに、高度技術者の第一線部隊ともいうべき、日本技術士会との連絡協力の強化をお願いする次第であります。

その 3

農業土木学会会長
福田 仁 志

学会発展のための一要因は会員数の増加にあるとして現在アメリカ土木学会は会員 50 000 名余、アメリカ農業工学会は 6 000 名余、わが土木学会は 19 000 余名、農業土木学会は 7 000 名余をもってそれぞれ会員の量的増大に努めている。一方、学会発展のためのほかの一要因は会員の質的向上にあるとしてときには量よりも重要であるとされている。このため各学会は会員へのサービスと相まってその方策に苦慮してきた。会員の多数と接する機会の多いのは、年次大会よりも各支部、および各種の委員会の活動を通じてであり、これらが質的向上に大いに役立つと考えられている。かくて学会の催す講演会などへの会員の出席率と、論文資料などの投稿率の年々の増加は量と質においての学会発展の一指標となる。

わが土木学会が 50 年間の発表になされたこの方面への活躍に心から敬意と祝意を表する。

その 4

日本造園学会会長
佐 藤 昌

最近の土木技術が、貴学会の活動を基盤として急速な進歩をとげたことはいまさら申すまでもありませんが、黒四ダム・名神高速道路・国鉄新幹線などが日本土木技術の所産であり、貴学会 50 年にわたる基礎的研究の成果として、世界的にも高く評価されていることに深く敬意を表するものであります。

私もは、自然景観、および人文景観の保全育成を研究しておりますが、最近の国土開発における保存と開発の問題に直面して、重大な責任を負わなければならなくなってまいりました。しかしながら、そのような重要な課題は、ひとり造園技術によって解決される問題ではあ

りません。私はむしろ大規模開発の中心技術であるところの土木技術の計画の段階において、慎重に検討されなければならない問題であると思うのであります。その意味において、私は貴学会に対し、開発計画における景観保全問題の共同研究を提唱し、その成果を期する次第であります。

その 5

日本道路協会会長
岩 沢 忠 恭

わが国の土木学会もここに半世紀の輝かしい歴史を飾ることとなった。一口に 50 年というが、50 年の歴史は、道路についていえば、その昔の街道からフリーウェイへの歴史に相当する。今日、わが国の国土建設のつち音はいよいよ高く、土木の仕事もますます複雑多岐になりつつある。そして、土木のそれぞれの分野をささえる団体もまたことに多種多様であり、その数も土木界の近代化の歩みとともに増えてきている。この間にあって土木学会は、その中核的存在として、常に人間社会の福祉における土木事業の使命と Civilization の意義を反すう顧りみながら、Civil Engineering の理想像を指し示すべき立場にあるものといえよう。わが国の今日の経済的発展と、国力の充実をささえる土台となっているものは、過去における土木事業の成果の蓄積であり、そして、将来この経済的伸長が社会生活の向上、さらには国民の福祉へと結びつく過程で、Civil Engineering の果すべき役割りは限りなく大きなものになろう。

土木学会の飛躍発展を期待してやまない。

その 6

日本都市計画学会会長
桜 井 英 記

昨秋貴学会の創立 50 周年について、今日まで学会を育成されました諸先輩、および全国吾全世界の建設に関係されている会員の皆様に対し、日本都市計画学会を代表し、心よりお祝い申し上げます。

今日、年間の建設工事量は 3 兆円にもおよぶと聞き、

未曾有の建設ブームの感がありますが、近々 10 年前まではその大半は郡部農山村において施工されておいたのに対して、オリンピックを迎える数年間の建設工事はその大半が市部におけるものであり、都市計画と土木の関連は大きく、また、多くの識者から緊密な連絡が要望されていますので、都市計画学会と致しましても今後ますます貴学会との連絡を密にして国民経済の進展に寄与したいと思ひ、所感の一端をのべます。

封建時代の土木工事はもちろん、明治の世になっても「救農土木」、あるいは昭和になっても「失対土木」という言葉があったように、土木工事は後進的な農業労働力に関連して施工されていたものが多いと思ひます。オリンピック工事華やかなとき視察した海外の技術者は、東京のど真中の飯場、建設選手村に、あるいは保護帽の大群に驚いておりましたが、たしかにわが国の土木工事は機械化が進んだといっても交通混雑、人家密集の都市内において現場労力が外国の都市土木工事に比して非常に多く、それが農村より流入した浮動性の未熟練労働力です。土木工事の経済的施工という点を考えますと、多くの人はまず資材の少ないことをあげますが、都市土木工事では資材の節約より、現場労力の少ない設計、工法を研究開発することが、工事をスピード化し、交通の安全を確保し、工事事務を防ぎ、市街地の安寧を保つために急務であろうと思ひます。飯場の設営などにばく大な諸経費を要し、浮動性の未熟練労働力により構造物の品質の向上が妨げられないように、今後都市計画の推進によりますます増加する都市土木工事については、都市に固定した熟練労働力により、現場労力の節約に徹した設計、および工法の研究開発について貴学会のご協力をお願いするものです。

今日 50 周年を迎えられた貴学会が、オリンピック関係建設に寄与された会員の総技術を決集され、これを期として郡部土木より都市土木へのご発展を期待いたします。

その 7

日本材料学会会長
広 田 寿 一

39 年をもって創立 50 周年を迎えられました貴学会に対し、日本材料学会を代表し心よりお祝詞申し上げます。

おもうに工学の根幹としてのシビル・エンジニアリングからは科学の進歩とともに多くの専門が分化発展をみ

たのでありますが、その中であって貴学会が創立以来建設に関する総合工学としての多様にして高度な研究、技術、また、わが国における独自の建設技術の進歩、開発の中核となり、国土開発、保全、国民福祉向上の大業に貢献されていますことはまことにご同慶に耐えません。

しかしながら、近年科学技術の進展はいよいよ精微をきわめ、その発展は止まるところを知りません。貴学会はこれら成果をも十二分に活用し、広大な分野をその基盤にもつ土木工学という総合的立場の代表学会として、他の各学協会との連けいをいっそう緊密にされ、より広い視野に立って会員諸氏の総力を結集されて、斯界の発展にご精励あらんことを祈願し、お祝いの言葉といたします。

その 8

都市計画協会会長
飯 沼 一 省

現代は都市化の時代といえる。先進諸国では生産技術の進歩とともに、農村人口の比重が低下し、非常な勢いで都市のぼう張がつづいている。来世紀初めには、どの国も都市人口が総人口の 80% あるいはそれ以上になることが予想されている。都市は互いに連続し、都市計画はより広い地域の計画となりつつある。建設事業はますます都市地域に多くの投資を要する傾向にある。しかるに現在においては、限られた地域に人口の集積することによる禍害がすでに強く現われつつある。将来の都市社会において、このような被害を排除することは最も重要な仕事である。土地利用、交通、用水、排水、その他あらゆる面の建設事業は周到な総合的な計画のもとに遂行されることが、今日ほど必要な時代はなかった。土木学会に要望したいことは、会員各位が、その従事する仕事の社会的経済的影響を正しくとらえるとともに、新しい計画の手法を開発されることにある。

その 9

全日本建築技術協会理事長
小 沢 久 太 郎

土木学会創立 50 周年を衷心よりお祝い申し上げます。社会資本の充実を期して公共事業が急速に増大しているため、土木技術者の不足が告げられています。これに対処するためには、設計施工の合理化、公共用地取得の円滑化、行政事務の簡素化など行政措置が必要であることはもちろんであります。抜本的には技術教育の拡充、技術水準の引き上げなどの対策が緊急に講ぜられなければなりません。また、土木技術者は行政部門においても、企業においてもすぐれたテクニシャンであると同時に、あるいは開発計画の分野で、あるいは経営管理の分野で、事業に科学性を付与する役割りを果たすことが要請されつつあります。技術水準にせよ、技術者の役割りにせよ、社会の求めるものは日々高度、かつ複雑となりつつありますので、土木工学部門でもこれに即応する施策がとられなければならないと思います。貴学会のよりいっそうの躍進を期待するしだいでもあります。

その 10

溶接学会会長

渡辺正紀

鉄道、高速道路、その他の交通機関の発達によって、鉄道橋、道路橋の建設がさかに行なわれ、壮麗をきわめている。土木工学、土木事業の進歩発達の結果であってまことに慶賀にたえない。溶接はあらゆる工業に欠くことのできないもので、土木関係についてみても鉄道橋、道路橋の溶接設計、構造の軽量化、あるいは杭の長大化のための溶接、斜杭の現場溶接、土木機械の補修等々、土木事業に対する溶接の関係は非常に深い。溶接に

関する学術、技術の進歩発達は近年目ざましいものがある。貴会と本会とはますます連けいにして、溶接の研究成果を土木事業に大いに活用していただきたい。

一言所懐をのべて貴会の創立 50 周年を衷心より慶賀するとともに貴会のご発展をいのる次第である。

その 11

日本河川協会会長

松本学

土木工学は総合科学である。他の諸部門の進歩を取り入れて進んで行く。外国語で Civil Engineering (文明工学) という表現が端的にこれを示しているということができよう。したがって、土木という言葉自体に時代感覚のズレが感ぜられるわけで、現在の文明工学は単なる土と木だけの科学ではなく、金属その他の諸要素が多分にふくまれている。名称そのものが問題となる所以である。

さらに、土木工学は内面的な問題をはらんでいる。戦後 20 年、日本の技術がすばらしい発展を遂げたことは自他ともに認めるところで、そのいちじるしい例がオリンピックを頂点とした建設活動に如実に示されている。ところが、これを動かす人の問題となると、そう簡単ではない。技術や科学の進歩は早いけれども、社会の関係となると別のものであって、この点にいまの日本を悩ましている問題のむずかしさがあるような気がする。

土木学会が、技術の向上とあわせて、人づくりの面でも新機軸をひらかれるよう関係者の努力をお願いしたい。

創立 50 周年 記念 出版

土木学会誌・論文集総索引

本索引は大正 4 年学会創刊以来 50 年間 (48 巻) にわたり学会誌、論文集に登載された約 5000 件の題目を 23 章 195 節に整理し、他部門にまたがる論文は重複をいとわず索引するのにきわめて親切な配慮をしております。文献調査委員会がその総力をあげて編集にあたった本索引集は、付録として過去の文献抄録をも配列してありますので、あらゆる面で利用価値はきわめて高いと思いますので、会員各位の座右にあって大いに活用されることを願います。

体 裁：B 5 判 260 ページ 写真植字 オフセット印刷 頒 価：800 円 (〒 100 円)

申込要領：代金に送料を添え土木学会あて御申込み下さい (振替東京 16828 番)